

---

## プロジェクト研究を終了して

川勝 賢亮:九州大学文学部

---

川勝班の研究代表者として、班を総括したが、各分担者の協力で一定の成果が挙げたと分担研究者各位にお礼を申し上げたい。と同時にこの研究プロジェクトを通じて二点にわたる学際研究が私のところの成果の一つになった。その第一は琉球沖縄のこれまでの研究情報を反映するとく、東洋史・日本史の研究者の合作が実現したこと、これは鹿児島・長崎・平戸その他各地での史跡巡見もまことに得難い経験であった。お陰で中国の研究者には、日本では史跡見学はこのようになってますよと自信を持って言えるようになった。

次に第二に歴史学研究、特に文献史学と工学部系情報研究の合作である。といってもパソコンに関しては「若葉マーク」どころかハンドルに触れた程度の私にとっては、その結果もアクセル踏んでブレーキがかけられる程度で、S字やクランクなどでも、仮免ももらえない程度ではあるが、それでもインターネットなるものもいじれるのだから、この世界は面白いことが分かった。次に、かかる情報研究はやはり「悪魔のささやき」がありそうだ。データベース、特に琉球家譜のデータベースは、そら恐ろしい感じがする。「歴代宝案」も然りで、これによって従来型の歴史研究論文数百編はムダになろう、と同時に新しい型の歴史学研究の出現があることも確実で、この変化は歴史学研究の明治維新・文明開化を意味するであろう。それは何か、誰がそれを一早く抱えるか、興味あるところである。私もこのバスには乗り遅れないようについて行きたいと思っている。